

精神科神経科

【概要】

大学医学部にとって教育、臨床、研究は最も重要な三本柱です。その中でも私はまず教育を重視したいと考えています。医療が高度化する中では、慈愛に満ち、豊かな人間性を有する医療者がさらに求められています。教室としてはしっかりとした精神医学的知識・医療倫理を基盤として偏りのないバランスの取れた柔軟な診方と広く人間性を尊重する治療・対応ができる人材を養うことが目標となります。これは各人の自主性を尊重しながら、話し合いを持ち、自由闊達なやり取りの場が必要です。また、臨床においては、日常生活・社会生活を障害している症状をなくしていくことに加えて、患者さんが満足できる状態になることを目指してきます。高い理想ではありますが患者さんとともに歩み、どのように具体的になし得るのか、日々診療場面での努力が必要です。全力でぶつからなければならない事柄です。そして大学病院として新たな治療手段へのチャレンジとともに、地域医療を支える体制を強化していきたいと考えています。

精神症状はヒトにおいては1000億個もの神経細胞が特有のネットワークを形成している脳を中心とした身体的な基盤のうえに表出されます。これらはとても複雑ではありますが、多くの偉大な精神科医が根気強く、地道な診察によって体系化していった経緯があります。さらに近年では脳科学の急速な発展に伴い、脳の働きから精神症状を見ていくことが可能になりつつあります。心理学、人文科学、数学からの新たなアプローチも試みられてきています。当教室としてはこれまで積み上げてきたものを生かして、病態を把握する研究を中心に、実地臨床として治療に生かせる研究へと多面的に進めていくつもりです。

研修医の皆さんや入局を希望される方々、私たちと未来志向の精神医学・精神科医療を作り上げていきませんか。お会いするのを楽しみにしています。



中川 伸 教授




【研修目標】

当科は、山口県内唯一の開放病棟と閉鎖病棟の精神科病床を有する総合病院です。統合失調症や気分障害にくわえ、難治例、診断困難例や身体合併症例（摂食障害など）が多く外来や入院で紹介されます。外来では他診療科との連携も密であり、院内リエゾンや緩和ケアチームでの活動を活発に行っています。入院では通常の治療（精神療法、薬物療法、環境調整、リハビリテーション）に加え、修正電気けいれん療法設備、高圧酸素療法設備などが揃い、クロザピン使用施設にも認定されています。外来では初診の予診や陪席、およびリエゾン診療の陪席を通じて、精神科診療において基礎となる鑑別診断、治療技法および多職種診療の習得を目指します。入院診療では、指導医（専門医）と専攻医からなる3～4名の3つの臨床グループで入院治療を行っていますが、そのグループに加わり、指導を受けながら入院患者の包括的な治療（薬物療法、精神療法、環境調整）について学びます。他の医局員との議論を通じて手技や物の見方を学び、軽症から最重症の患者さんの治療にあたり経験を積むことで、精神科医としての基礎が作れ、自分の適性を見出すことができると思います。



松原敏郎 医局長

【研修スケジュール例】

専攻医タイムテーブル 	
9:00~ 	<ul style="list-style-type: none">● 初診予診・陪席 主に予備診察を行います。その後指導医と共に再び診察を行うことで、コミュニケーションスキルや精神科的なアプローチの基本を身につけることができます。
	<ul style="list-style-type: none">● 電気けいれん療法（週2回） 統合失調症や気分障害で適応となる症例に行っています。指導医の下、実際の手技や発作波の評価を行います。
14:30~ 	<ul style="list-style-type: none">● 全体カンファレンス、教授回診● グループカンファレンス（週1回） 各症例の入院報告、経過報告をプレゼンテーションします。活発な議論が交わされます。
	<ul style="list-style-type: none">● 症例報告会（月1回） 学会発表形式で症例の発表を行います。
17:30~	<ul style="list-style-type: none">● 医局会、論文抄読会（週1回） 最新の英語論文を日本語に要約して、医局員に紹介します。

タイムテーブル以外の時間は、病棟業務（担当患者さんの診察、隔離診察など）を行います。当科は閉鎖病棟と開放病棟の両方を有するため、統合失調症、気分障害、神経症以外にも、器質性精神障害や認知症、児童思春期症例など幅広い疾患を経験することができます。

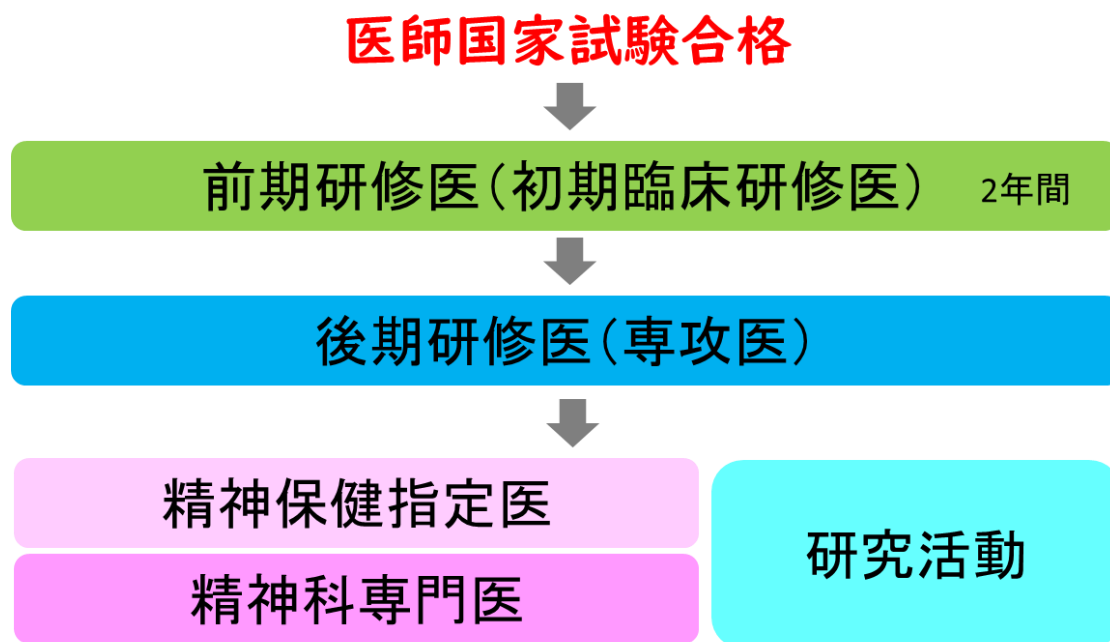
入院治療は、指導医2名（専門医）と専攻医からなる4名程度の3つのグループで行っています。日々、指導医から直接の指導を受けることはもちろんのこと、グループカンファ

レンスではアットホームな雰囲気の中で各症例の診断や治療方針についてディスカッションしています。全体カンファレンスでのプレゼンテーションは多少緊張感がありますが、様々な意見をいただけるので、症例に対する理解をより深めることができます。

病棟では、担当症例の多職種カンファレンスに参加します。カンファレンスでは看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士、栄養士などの意見を聞き、多職種スタッフの視点を取り入れること、多職種で連携することの重要性を学びます。

また座学については、年間を通じてクルズスという講義が専攻医を対象に開催され、疾患の基礎的な理解から治療上のコツまで学ぶことができます。





① 精神保健指定医

精神保健福祉法に定める医師の国家資格で、人権を擁護するための資格でもあります。治療が必要だが入院に非同意な患者さんの入院（医療保護入院）や、行動制限（隔離、拘束など）を行う際に必要になります。精神科病棟を有する病院に勤務する場合には必須ともいえる資格です。

② 精神科専門医

精神科診療を行うための十分な知識・経験を持つ医師として認められるものです。

上記のいずれも、一定の年数・症例数を経験し、レポート作成および試験（筆記、口頭）に合格しなければなりません。大学病院および関連病院での研修を通して、すべての必要な症例を経験することができます。また、レポート作成時には、指導医を含む複数の上級医から懇切丁寧かつ厳格な指導を受ける体制を整えています。

【指導医からのコメント】

研修医の先生方は精神科に対してどのような印象をお持ちでしょうか。なるべく関わりたくないと考えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。人は得体の知れないものに恐怖を感じます。精神科も、精神疾患も、多くの人にとって「わからない、得体の知れないもの」であり、怖いと感じられるのも無理はありません。しかし、実際に精神科の患者さんに関わり、理解していくにつれて、恐怖感や抵抗感は自然に減っていくと私は考えています。研修を通して、精神科に親しみを持ってもらえる先生が一人でも増えることを願っております。研修以外でも、精神医学や精神科医療に少しでも興味がある方は、遠慮なくご連絡いただけたらと思います。



原田 病棟医長

【お問い合わせ先】

山口大学医学部附属病院 精神科神経科

松原 敏郎（医局長）

TEL：0836-22-2255

E-mail：seisin@yamaguchi-u.ac.jp

Website：http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~mental/